# 1．はじめに（見出し1　章レベル：MSゴシック、12pt、標準、行間１、段落後1行）

本文ほんぶんhonnbunn。本文のスタイル設定（MS明朝、10.5pt、標準、行間1）本文ほんぶん、脚注の例[[1]](#footnote-1)honnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn。本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn。本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn。

これらの説明書きのテキストボックスは、削除してご利用ください。

このファイルでは標準スタイルで本文を入力します。本文のスタイル設定は（MS明朝、10.5pt、標準、行間1）です。本文入力をひたすら行い、段落はじめの字下げはスペースを入力します。段落は改行で表現してください。見出しも単純に入力していき、見出し番号と改行を入れるようにしてください。見出しレベルは章と節の2種類で、カウントは章レベル(半角)1.、節レベル(半角)　1.1：、としています。見出しのスタイル設定は、見出し部分に記載のあるとおりに設定をしてください。

また、脚注形式で詳細説明を入れることが可能です。本文中に脚注を挿入してください。Wordのバージョンによりますが、「参考資料」または「参照」タブを開き、本文中の脚注挿入箇所にカーソルを置いたまま“脚注の挿入”をクリックしてください。同じファイル内で番号が付与されページ下部に入力が可能になります。

本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn

unn本文ほんぶんhonnbunn。本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn。

本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn脚注の例[[2]](#footnote-2)honnbunn本文ほんぶんhonnbunn

## 1.1：節見出し（見出し2　節レベル：MSゴシック、11pt、標準）

本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn。本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn。

図、グラフの挿入については、MS Office（エクセルやパワーポイントなど）の埋め込み機能を使用しないでください。画像データでページ内に収まるように貼り付けてください。また、図表番号・タイトルや注釈などは画像データに含めず文章中にそれとわかるように記載してください。図のタイトルは注釈の後、図の下に配置してください。

番号が付与されページ下部に入力が可能になります。

本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn。本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbun。



（注1）図表の注釈は図の直下に配置し、スタイルは（MSゴシック、7.5pt、標準、行間：固定値9pt、段落前2pt、段落後0pt）です。

（注2）←この図表への注釈のカッコは全角を使用しています。

図 1　図のタイトル(MSゴシック、9pt、標準、中央揃え)

（**改行）**

図の後に本文を継続したい場合は、改行を入れてください。グラフも以下の通り、画像で張り付けてください。グラフの埋め込みはしないでください。

本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文ほんぶんhonnbunn本文。ほんぶん、本文はここに。脚注の例[[3]](#footnote-3)ホンぶん本文honnbunnほんぶんホンブン本文。ほんぶんほんぶんほんぶんホンブンほんぶん本文。



（注１）図表の注釈は図の直下に配置し、スタイルは（MSゴシック、7.5pt、標準、行間：固定値9pt、段落前2pt、段落後0pt）です。

（注２）グラフはタイトルなしのイメージデータを貼り付けてください

図２　グラフのタイトル(MSゴシック、9pt、標準、中央揃え)

**（改行）**

Honnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。Honnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブン。Honnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。

表は、WORDの表の追加で直接作成するか、イメージデータにして張り付けしてください。エクセルなどで作成した場合は、BOOKの埋め込みをしないこと。表タイトルは表の上部に配置します。表の注釈は表の下部に配置します。

図表はモノクロでお願いします。

**（改行）**

（表１）表タイトル（MSゴシック、9pt、標準、中央揃え）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 分類 | A | B | C | D |
| 4月 | 20 | 99 | 100 | 90 |
| 5月 | 50 | 24 | 50 | 80 |
| 6月 | 11 | 180 | 78 | 70 |
| 7月 | 88 | 90 | 76 | 45 |
| 8月 | 20 | 99 | 100 | 45 |
| 9月 | 50 | 24 | 50 | 90 |
| １０月 | 11 | 180 | 78 | 80 |
| 11月 | 88 | 90 | 76 | 70 |
| 12月 | 11 | 180 | 78 | 80 |

（注1）図表の注釈は図の直下に配置し、スタイルは（MSゴシック、7.5pt、標準、行間：固定値9pt、段落前2pt、段落後0pt）です。

（注2）←この図表への注釈のカッコは全角を使用しています。

**（改行）**

Honnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。Honnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶん本文ホンブンほんぶん本文ホンブンほんぶん本文ホンブンほんぶん本文ホンブンほんぶん本文ホンブンほんぶん本文ホンブンほんぶん本文ホンブンほんぶん本文ホンブンほんぶん本文ホンブンほんぶん本文ホンブンほんぶん本文ホンブンほんぶん。

**（改行）**

（表２）表タイトル（MSゴシック、9pt、標準、中央揃え）



（注1）画像で挿入した例です。

**（改行）**

Honnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンHonnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。

また、本文中や図表に特殊フォントを利用している場合は最終的に電子化作業において文字化けなどの問題が起こることがありますので事前にお知らせください。（ただし、画像で貼り付けされた場合は文字化けすることはありません）

多くの制約がありますが、査読者へ提出する論文ですので、読者にわかるように書くことが大前提です。

査読が完了し掲載が決定しましたら電子化公開にむけてフォーマットの統一作業を行います。その場合、内容以外の部分を修正・変更させていただくことがございますが、あらかじめご了承ください。

Honnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンHonnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン

# 2．章見出し（見出し1　章レベル：MSゴシック、12pt、標準、行間１、段落後1行）

## 2.1：節見出し（見出し2　節レベル：MSゴシック、11pt、標準）

Honnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンHonnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんHonnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶん

本文の1字字下げは、全角スペースを入れます。

箇条書きや段落番号は、標準書式のまま見た目を整えて箇条書きに指定いただいてもかまいませんが、ホームタブの「段落」で設定することができます。

1. 箇条書き／段落番号は本文のスタイルと同じです。
2. ただし、電子化作業において若干の調整を加えることがありますので、あらかじめご了承ください。

honnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンHonnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんHonnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn、本文ホンブンHonnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン、本文ホンブンHonnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。

Honnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンHonnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。honnbunn本文ホンブンほんぶん。

# 3.章見出し（見出し1　章レベル：MSゴシック、12pt、標準、行間１、段落後1行）

Honnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn脚注の例[[4]](#footnote-4)本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn。本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。脚注の例[[5]](#footnote-5)本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。

本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。

## 3.1:章見出し（見出し1　章レベル：MSゴシック、11pt、標準、行間１、段落後1行）

ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn。本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。

本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn脚注の例[[6]](#footnote-6)本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn。本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。

本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn。本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。

本文ほんぶん、脚注の例[[7]](#footnote-7)ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。

# 4.おわりに（見出し1　章レベル：MSゴシック、12pt、標準、行間１、段落後1行）

Honnbunn本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。ほんぶんhonnbunn本文ホンブンほんぶんhonnbunn。本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。

本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ほんぶん、ほんぶんhonnbunn本文ホンブン。本文ホンブンほんぶんhonnbunn本文ホンブン。

参考文献は、論文の最後にまとめて記載します。参考文献の記載方法については、一般的に特定のルールがあります。記載方法の注意事項について、本会「執筆・投稿・審査規定」および「論文作成要領」を参考にしてください。

＜参考文献＞　←タイトルのスタイル（MSゴシック、10.5pt、標準）

和文著者名　（20●●）「書名タイトル」出版社名など（参考文献和文：MS明朝、9pt、標準）

Author Name. (20●●) Book Title(Italic), Date of publication, The publisher. (参考文献欧文：Times New Roman、9pt、標準)

Author Name. (20●●) Book Title(Italic), Date of publication, The publisher. (参考文献欧文：Times New Roman、9pt、標準)

1. 脚注スタイル（MS明朝、8pt、標準、段落：行間は1行、「1ページの行数を指定時に文字を行グリッド線に合わせる」をオフ、同じ段落の場合はスペースを使用しない） [↑](#footnote-ref-1)
2. Kyakuchuすたいる、キャクチュウスタイル脚注すたいる脚注。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 脚注の説明はここに記載できます。（脚注スタイル：MS明朝、8pt、標準、段落：行間は1行、「1ページの行数を指定時に文字を行グリッド線に合わせる」をオフ、左揃え）脚注説明は改行しても引き続き入力ができます。脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu。脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu。脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu。 [↑](#footnote-ref-3)
4. 脚注の説明はここに記載できます。（脚注スタイル：MS明朝、8pt、標準、段落：行間は1行、「1ページの行数を指定時に文字を行グリッド線に合わせる」をオフ、左揃え）脚注説明は改行しても引き続き入力ができます。脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu。脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu。脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu。 [↑](#footnote-ref-4)
5. 脚注の説明はここに記載できます。（脚注スタイル：MS明朝、8pt、標準、段落：行間は1行、「1ページの行数を指定時に文字を行グリッド線に合わせる」をオフ左揃え）脚注説明は改行しても引き続き入力ができます。脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu。脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu。脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu。 [↑](#footnote-ref-5)
6. 脚注の説明はここに記載できます。（脚注スタイル：MS明朝、8pt、標準、段落：行間は1行、「1ページの行数を指定時に文字を行グリッド線に合わせる」をオフ、左揃え）脚注説明は改行しても引き続き入力ができます。脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu。脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu。脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu。 [↑](#footnote-ref-6)
7. 脚注の説明はここに記載できます。（脚注スタイル：MS明朝、8pt、標準、段落：行間は1行、「1ページの行数を指定時に文字を行グリッド線に合わせる」をオフ、左揃え）脚注説明は改行しても引き続き入力ができます。脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu。脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu。脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu脚注きゃくちゅうキャクチュウkyakukcyuu。 [↑](#footnote-ref-7)